気象庁が発表する
防災気象情報が変わりました

問危機管理課☎ 43-5203

令和８年５月 29 日から新たな防災気象情報の運用が始まっています。

これまで、気象情報は警戒レベルとの対応が複雑でわかりにくくなっていましたが、今回の改善で、気象情報の名称そのものに警戒レベルが付き、市が発令する避難情報と防災気象情報の関係性がわかりやすくなりました。

市が発令する避難情報	大雨 ・低地の浸水 ・大河川以外の氾濫	土砂災害 ・がけ崩れ ・土石流 ・地すべり	高潮 ・高波による浸水
警戒レベル５ 緊急安全確保	レベル５ 大雨特別警報	レベル５ 土砂災害特別警報	レベル５ 高潮特別警報

警戒レベル４までに危険な場所から必ず避難！

警戒レベル４ 避難指示	レベル４ 大雨危険警報	レベル４ 土砂災害危険警報	レベル４ 高潮危険警報
警戒レベル３ 高齢者等避難	レベル３ 大雨警報	レベル３ 土砂災害警報	レベル３ 高潮警報
	レベル２ 大雨注意報	レベル２ 土砂災害注意報	レベル２ 高潮注意報
	早期注意情報		

※大河川の氾濫を対象とした防災気象情報であるレベル５氾濫特別警報、レベル４氾濫危険警報、レベル３氾濫警報、レベル２氾濫注意報もありますが、市内を流れる河川は対象外のため発表されません

警戒レベル	警戒レベルごとのとるべき行動	
レベル５	災害が発生！	災害が発生しているまたはいつ発生してもおかしくない状況です。 少しでも安全な場所へ移動してください。
レベル４	全員避難！	重大な災害が発生するおそれがあります。 危険な場所から全員が避難してください。
レベル３	高齢者などは早めに避難！	高齢者や障害のある人、妊産婦、乳幼児連れの人やその支援をする人など、 避難に時間がかかる人は早めに避難してください。
レベル２	避難行動の確認！	ハザードマップなどで災害リスクを確認したり、 テレビやインターネットで最新の気象情報に注意してください。

高 ↑ 危険度 ↓ 低

避難ってなに ??

避難とは、災害リスクのある場所にいる人がその場所を離れて、災害リスクの無い安全な場所へ移動することです。市が指定する避難場所へ行くことだけが、避難ではありません。高台や知人・親せき宅、自宅の２階へ移動することも避難です。

例えば、土砂災害の災害リスクが無い場所に自宅がある人は、土砂災害の危険が高まったからといって、避難する必要はありません。

台風に備えましょう

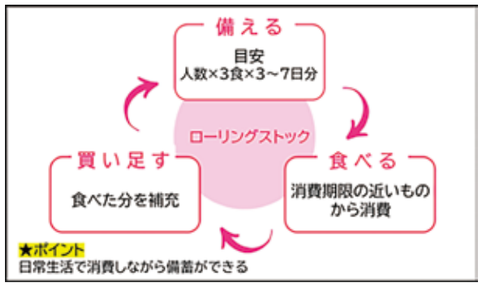
大雨が降る前、風が強くなる前に家の外の備えをしておきましょう。

・窓や雨戸はしっかりと鍵をかけ、必要に応じて補強しましょう。
・側溝や排水口は掃除して水はけを良くしておきましょう。
・風で飛ばされそうな物は飛ばないように固定したり、屋内へ移動させましょう。
・農業用ビニールやトタン、看板、養生シートを固定しておきましょう。

はじめよう！家庭でローリングストック ー備蓄のすすめー

ローリングストックとは、普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法です。

栄養バランスとご家族の好みに応じた備蓄を考え、できれば１週間分の食料を備蓄してください。



非常用持出袋を準備しよう！

避難のときに、すぐに持ち出せるよう玄関など持ち出しやすい場所に置き、日ごろから点検しておきましょう。
荷物は必要な物を選択して、最小限にし、移動や行動がしやすいようにリュックサックに入れておきます。

例えば、どんな物を入れるの??

□非常食・飲み物　□懐中電灯　□貴重品　□薬・救急用品　□携帯ラジオ
□洗面用具　□筆記用具　□スリッパ、軍手　□マスク、体温計、消毒液　など

乳幼児のいるご家庭
□ミルク　□使い捨て哺乳瓶　□離乳食　□紙おむつ　など

高齢者のいるご家庭
□紙おむつ　□入れ歯洗浄剤　□持病のお薬、補聴器　など

ご家庭によって、必要な物が異なります。ご家族で必要な物を話し合ってみましょう。

ハザードマップで危険箇所を確認しよう！

正しく避難するために、自宅、職場、よく行くお店の周辺にどんな災害リスクがあるか、どこに避難するべきかをハザードマップで事前に確認しておきましょう。

ハザードマップをお持ちでない人は、危機管理課で配布しています。また、市ホームページでもご覧いただけますので、ご活用ください。

市ホームページ

「避難場所」と「避難所」の違い

避難場所　●災害から身を守るため一時的に逃げ込む場所

洪水・土砂災害・津波など、災害の種別ごとに指定しています。

避難所　●自宅で過ごすことができなくなったとき、一定期間、避難生活を送る場所

市では、災害の種別に応じて「風水害時に開設する避難所」と「地震時に開設する避難所」を定めています。